



# Murata Report 2013

Corporate Report  
CSR Report



# Innovator in Electronics®

ムラタが作っている電子部品のことを、  
多くの人は知りません。けれども、ほとんどの人は  
ムラタの電子部品を使っています。  
パソコン、携帯電話、家電製品、カーエレクトロニクス…。  
より小さく、より高機能に、  
日々めざましく進化を続ける電子機器の中で、  
ムラタの電子部品は活躍しています。

## Innovator in Electronics®

電子部品は、変わり続けています。  
ムラタもまた、変わり続けたいと思います。  
時代の動きを受け止め、  
まっすぐにお客様を見つめ、  
現場でのモノづくりに誇りを持ち、  
たえず新しい課題にチャレンジする、  
エネルギーに満ちた  
改革者 (Innovator) であり続けたいと思います。  
変わらない信念を持って、大胆に変わっていく。  
ムラタはどんな時代にも  
イノベーターであり続けます。

# Index



## Corporate Report

- 01 Innovator in Electronics®
- 02 Index
- 03 トップメッセージ
- 05 バリューネットワーク
- 07 コア・コンピタンス
- 09 アプリケーション別製品紹介
- 13 財務ハイライト
- 15 グローバルネットワーク

## CSR Report

- 17 CSRコミットメント
- 19 事業とCSR
- 21 環境特集
- 23 環境保全推進
- 25 従業員への責任と行動
- 27 仕入先様への責任と行動
- 28 社会・地域への責任と行動
- 29 CSR活動における目標と実績
- 31 第三者からのご意見

## Profile

- 32 国内外拠点一覧
- 33 役員一覧
- 株式の状況
- 大株主の状況

※本誌では村田製作所グループ全体をムラタと表記しています。

# Murata's Philosophy

創業の思いをあらたに  
グローバルで価値提供を目指す。



## 変わらないといけないことと 変えないものと。

今Murataを取り巻く環境は、市場ニーズの変化、急速なグローバル化、新興市場の拡大などまさに激動のなかにあります。企業は変化にスピーディに対応することが求められています。変わらない企業は生き残れないでしょう。一方で、私たちには「変えないもの」もあります。

私たちが変えないもの、「経営理念」は「社是」に込められています。時代の変化に左

右されることなく、常に私たちの判断、行動の軸として理解され、経営判断のベースとなるものです。私たちの製品やサービスはお客様に価値をみとめていただいているか？ 私たちはInnovator in Electronics®としてお客様に驚きと感動を与えているか？ 私たちは成長できているか？ 私たちは常にこう考えています。

## ありたい姿の実現に向けて。

社是に示される、ありたい姿を実現するため、10年先を描く成長ストーリーを「コーポレート

### 社是

技術を練磨し  
科学的管理を実践し  
独自の製品を供給して  
文化の発展に貢献し  
信用の蓄積につとめ  
会社の発展と  
協力者の共栄をはかり  
これをよるこび  
感謝する人びと  
ともに運営する

ブランドデザイン」としてまとめています。事業ドメインを「ハウス」として捉え、それぞれの「ハウス」を大きく成長させていくことで、お客様に提供する価値の領域を広げていきます。さらに将来の事業の柱となる商品もしっかりと育て、10年後も今と変わらず継続的な成長を目指します。

## 3つの行動指針、そしてその先へ。

2013年4月からスタートした中期構想では、コーポレートブランドデザインを実現するために次の3年でとくに大事にしたい行動指針

として「真のグローバル化」「全員マーケティング」そして「モノづくり力の進化」をあげています。グローバル競争に打ち勝つためにMurataグループ各拠点やパートナーと協同して、世界に点在する最善のリソースを活用する。Murataメンバー全員がお客様へ提供する価値を追求していく。そして材料、製品設計、プロセス設計を含む生産設備と製造現場が一体となり、モノづくりの本質的な力をさらに高めます。Murataメンバー全員でこれらを着実に実践していくことで、世界への貢献を目指してまいります。

代表取締役社長 **村田 恒夫**

# All for Customer

お客様への想いで、私たちはつながっています。

グローバルな展開を強化していく中で、従業員全員が自在につながりながら、お客様に喜んでいただける価値を創造すること。それがバリューネットワークの思想です。このバリューネットワークの力で世界の新しい未来に貢献します。

上海の電波暗室を現地スタッフとともに積極活用して“次”のアイデアを生む。

EMI (Electro-Magnetic Interference=電磁妨害) 問題について、ムラタは早くからその対策の必要性を認識し、さまざまなEMI除去フィルタを開発するとともに、放射ノイズを測定し、有効な対策を提案するために本社と横浜事業所に電波暗室を設置。多くのお客様にさまざまなソリューションを提供してきました。2010年には、ムラタとしては海外初となる電波暗室「ムラタEMCセンター」を中国・上海に開設。さらに、深圳、北京、台湾にもシールドルームを設置し、広く中華圏のお客様に対して問題解決のサポートができる体制を整えました。今後は、長年にわたり国内で蓄積された対策技術を現地に移転するとともに、現地で人材を育成することが急務です。EMI対策は、お客様にその回路ごとのソリューションを提供するだけでなく、新しい技術のシーズや商品のアイデアが生まれる場所でもあります。その意味では世界中の企業が進出している中国は、チャンスの宝庫であり、さらに注力していこうと思っています。



株式会社村田製作所  
コンポーネント事業本部 販売推進部  
飯田 直樹

ムラタの“モノづくりの精神”を共有しつつ、地域の特徴を活かしたグローバルなモノづくりへ。

独自の工法技術を独自の設備で具現化する、という創業以来の思想がムラタにはあります。先端の製品を生み出すためのオリジナルマシーンは、ムラタの誇りでもあります。現在では製品ラインナップが多様化し、生産拠点も日本からアジアへと広がりを見せている中で、設備に関してもグローバルな視点での最適化が求められています。そのため、ムラタでは2009年から東アジア・東南アジア地域での設備サプライヤー開拓を開始し、自社設備の海外製作や一部社外設備の活用などにも取り組んでいます。この活動では、ムラタの現地スタッフと国内スタッフが連携して取り組み、設備・人材育成の両面から、各拠点のモノづくり力強化を図っています。ムラタ伝統のモノづくりの精神を共有しながら、各拠点でその地域ならではの特色を活かしたモノづくりへと進化しようとしています。

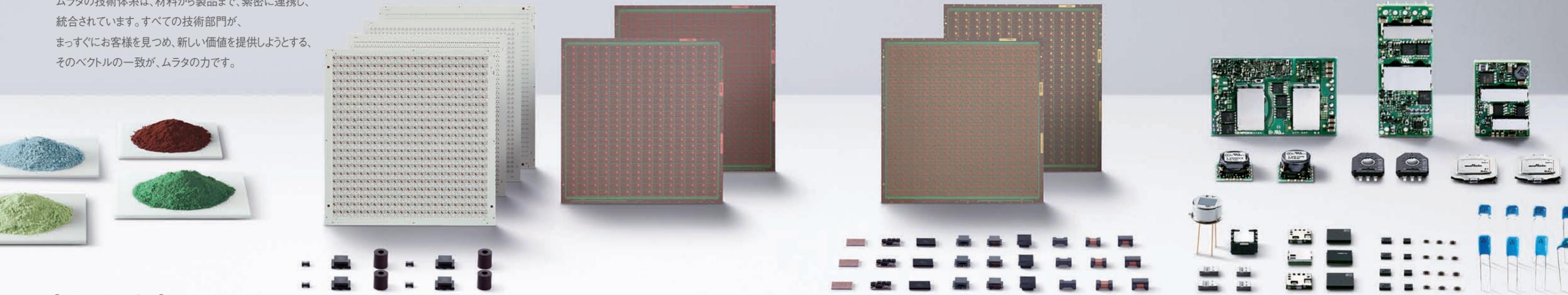


写真左より  
①李 玲 (Li Ling) / ②小山 博 / 株式会社村田製作所 生産本部 モノづくり強化推進部  
③久郷 大作 / ④首藤 陽子 / ⑤芹ヶ野 雅之 / 株式会社村田製作所 生産本部 設備購買部  
⑥James Lum Mum Foong

# Murata's Core Competence

すべての技術がまっすぐに市場を、お客様を志向しています。

ムラタの技術体系は、材料から製品まで、緊密に連携し、統合されています。すべての技術部門が、まっすぐにお客様を見つめ、新しい価値を提供しようとする、そのベクトルの一致が、ムラタの力です。



## [ムラタのものづくり]

### 材料

電子部品の特性に決定的な影響を与えるセラミック材料や電極材料を、高い精度で制御する技術を確立しています。



### 成形

厚さ1 $\mu$ m以下のセラミックシートから、射出成形による複雑な形状まで。“機能のための形”を追求しています。



### 焼成

セラミックスは、焼き固められることで結晶構造が変化し、性能を発揮します。炉の中の見えない挙動を制御する技術です。



### 加工

焼成までの工程を経て電気的な性能を獲得したセラミックスは、次にさまざまな加工が施されて、「電子部品」として完成されていきます。



### 完成

完成した製品は、厳しい検査を受け、その性能を保證されたものだけが、ムラタ製品としてお客様に届けられます。



## [ムラタのコア技術] ムラタを支えるコア・コンピタンス

### 材料技術

10年先を見据えて、源流から新しく。

材料、部品、モジュールというエレクトロニクスにまつわるものづくりの技術を、自社内に垂直統合しているのがムラタの特徴であり、強味でもあります。セラミック材料や有機材料に関する技術はすべての工程の川上にあり、ここにどれほどのシーズを蓄えているかが未来を決めると考えています。10年先の世界を見据えたロードマップをつくり、さまざまな特性を持った材料の開発を進めています。



株式会社村田製作所  
技術・事業開発本部  
マテリアル技術センター  
勝 勇人

### 積層技術

小型大容量化の先端を走る総合技術。

調製されたセラミック材料をきわめて薄いシートに成形し、電極を形成して何層にも積み重ねる工程が積層技術。ムラタは長年にわたって積層セラミックコンデンサを開発、生産する中で、この技術を徹底的に鍛え上げてきました。すべての工程の技術が高いレベルでバランスを保っていることが、ムラタのアドバンテージです。小型大容量化の要求が日増しに高まる中で、QCDをトータルで提供することができます。



株式会社村田製作所  
技術・事業開発本部  
新規プロセス開発センター  
田畑 和寛

### 生産技術

オリジナルな設備に蓄積される固有技術。

ムラタは基本的に生産設備を自社オリジナルで開発・製造しています。たとえば、私が担当している外観検査装置は、独自の画像処理アルゴリズムにより、製品の品質づくり込み・品質保証を実現しています。エレクトロニクスに新たな価値を創出し、提案するムラタの企業活動、その成果としての商品を生み出すには、製品コンセプトにマッチした生産ライン・設備が必要であり、また、そのことがムラタの競争力につながっています。



株式会社村田製作所  
技術・事業開発本部  
新規プロセス開発センター  
西木 亮

### 高周波技術

コミュニケーションの明日を支えるテクノロジー。

急速に進化するスマートフォンやタブレット端末など、モバイル機器のイノベーションを支えているもの。それは、ムラタの高周波フィルタ、およびそれがパッケージされた通信モジュールです。小型で高機能な機器の中には、ムラタ独自のLTCC設計技術やシミュレーション技術でデザインされたモジュールが集積されています。時代の動きを先取りして、未来のニーズにマッチした新たな技術開発に取り組んでいます。



株式会社村田製作所  
通信事業本部  
通信システム商品事業部  
小野 農史

# 電子機器に *Innovation* を 生み出す電子部品。

電子機器がますます小さくなったり。  
どんどん新しいことができるようになったり。  
機器の「中」から新しいことを始める、それが電子部品の仕事です。



## Communications [ 通信 ]

あなたと、未来と、安心と、つながるケータイ。

—そこには、もっとつながりたいムラタがいます—

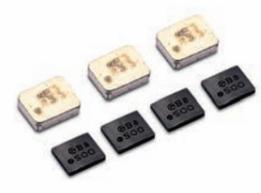
世界中の人々が手に取る携帯電話。  
より高速で大容量な通信サービスも登場し、多機能化やスマート化が進んでいます。  
小型で高機能な高周波部品やセンサ、機能モジュールが、進化と普及に貢献しています。

### 携帯電話の中にあるムラタの主要製品



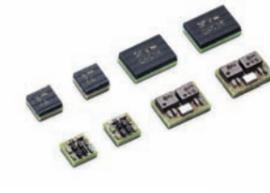
積層セラミックコンデンサ

世界最小Q402サイズの超小型品はスマートフォンの小型・薄型化に貢献します。また、大容量品は従来の携帯電話よりも高機能となるスマートフォンのAPUの安定動作を支えます。



表面波フィルタ、表面波デュプレクサ

無線信号の中から必要な成分だけを取り出すフィルタやデュプレクサは、高周波回路のキーデバイス。ムラタは独自の小型化技術で、回路設計の自由度に貢献しています。



スイッチデュプレクサ®

ノイズを取り除くフィルタリング機能や送受信を切り替えるスイッチング機能を担う部品。多層モジュールの技術でコンパクトかつ高信頼性を実現しています。



コネクティビティモジュール

無線LANによってスマートフォンからインターネットにアクセスするためのデバイス。スマートフォンの多機能化の流れをリードしています。

## Computers [ コンピュータ ]

いつでも、どこでも、コンピューティング。

—「簡単」を実現する、簡単じゃない技術をムラタから—

高速無線通信やクラウドサービスの普及で、簡単に持ち運べて簡単につながる、モビリティの高いPCやタブレット端末が注目を集めています。電子部品の小型化、高周波化、バッテリーにやさしい低消費電力化、そして信頼性と、快適な操作性を実現するセンサなどで、新時代のコンピューティングをサポートしています。

### コンピュータの中にあるムラタの主要製品



ショックセンサ

ハードディスクを衝撃から守る役割だけでなく、振動を電気信号として磁気ヘッドコントロールに返すことで、高密度・高容量化に貢献します。



積層セラミックコンデンサ、  
低ESLコンデンサ

MPUに供給する電力を安定化させる小型大容量コンデンサ。モバイルPCの小型、薄型化に貢献します。



チップEMI除去フィルタ  
(エミフィル®)

多くのデジタル機能が小型のパッケージに集約されたモバイル機器の普及により、機器内でのノイズ対策が重要になってきています。小型でさまざまな用途に対応したノイズ対策部品がノイズ問題を解決します。



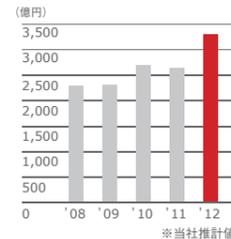
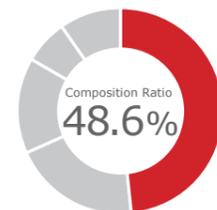
コネクティビティモジュール

無線LANによってタブレット端末からインターネットにアクセスするためのデバイス。タブレット端末の多機能化の流れをリードしています。

### 高機能携帯電話の普及が成長ドライバーに。

ムラタの電子部品の需要として、最も大きな割合を占めるのが携帯電話です。携帯電話台数の伸びもさることながら、LTE端末やスマートフォンといった高機能機種種の普及が進み、コンデンサや表面波フィルタ、コネクティビティモジュールなど携帯電話1台あたりの部品搭載点数が格段に増えており、今後も大きな成長が期待できます。

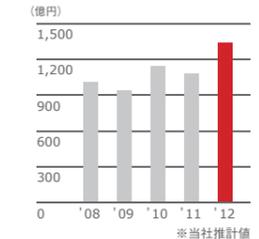
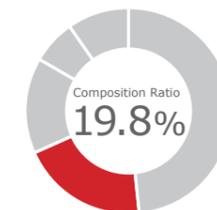
■ 通信の売上構成比と売上高



### モバイルコンピューティングが新たな成長段階に。

搭載されるプロセッサの性能向上にともない、コンデンサやノイズ対策部品の需要が拡大しています。また、ハードディスクドライブ用のショックセンサでは圧倒的なシェアを維持しています。さらに、無線通信機能を搭載したタブレット端末の普及により、ムラタの得意とする高周波部品や機能モジュールの成長も期待されます。

■ コンピュータおよび関連機器の売上構成比と売上高





## Automotive Electronics [カーエレクトロニクス]

地球にとって、人にとって、車の技術はこれからももっと。

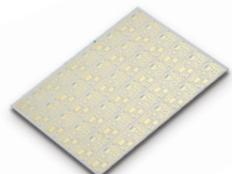
—だから、ムラタには、まだまだやることがいっぱい—

人と地球にやさしい環境性能を追求して、クルマの電子化や電動化が進んでいます。セラミックの耐熱特性を活かした高信頼性電子部品が過酷な環境の中で性能を発揮。MEMSセンサは安全、安心なクルマづくりに役立っています。



**MEMS加速度センサ**

マイクロマシン(MEMS)技術を基本に開発したセンサ。重力・振動・動き・衝撃を測定することができ、クルマへの応用は多岐にわたります。横滑り防止装置(ESC)やアンチロック・ブレーキシステム(ABS)など、クルマの基本性能にかかわる部分にも導入されています。



**LTCC多層基板**

低温焼成のセラミック基板で、パワートレインコントロールECUの小型化・信頼性向上、レーダーモジュールなどの安全性改善、アイドリングストップの採用による燃費改善等、クルマの性能改善に幅広く貢献します。



**金属端子付き積層セラミックコンデンサ**

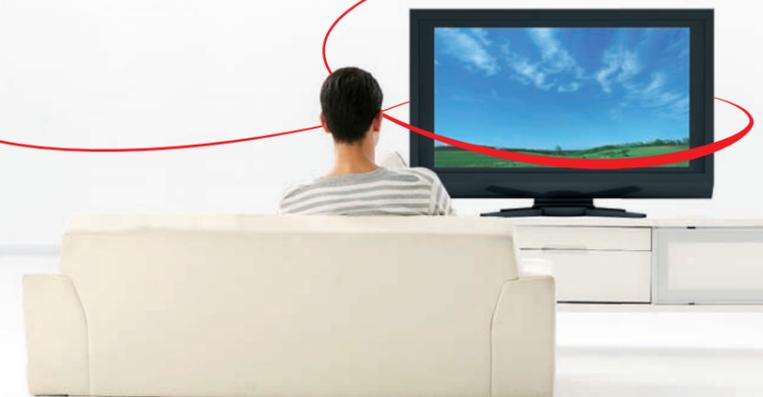
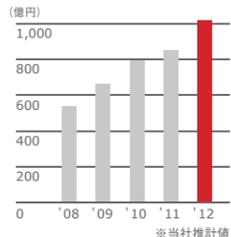
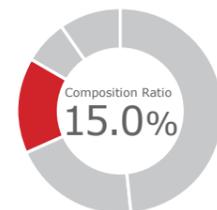
基板の振動やたわみ応力を金属端子が吸収し、セラミックにクラックが入ることを防止した高信頼性コンデンサ。鳴き対策にも有効で、カーエレクトロニクスの世界で活躍しています。

自動車の中にあるムラタの主要製品

エコ、安全、快適のための多彩な電子部品需要。

エコカーが主流になるにつれて自動車の電子制御化が一層進み、コンデンサをはじめとした電子部品の需要は急速に伸びています。また、安全装備に用いられる各種センサや、Bluetooth®モジュールなども好調。自動車関連全体では今後も高い伸びが期待できます。

■ カーエレクトロニクスの売上構成比と売上高



## Audio and Visual / Home Appliances [AV/家電]

家の中には、家族とムラタがいます。

—賢くて、経済的なのが、おしゃれです—

テレビが、私の好きな番組を覚えていてくれる。エアコンが、人のいるところだけ涼しくしてくれる。センサや変換効率の高い電源モジュールが、新しいスマートでエコな暮らしをサポートしています。



**イオナイザ(イオニシモ®)**

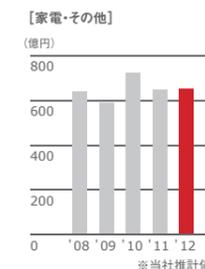
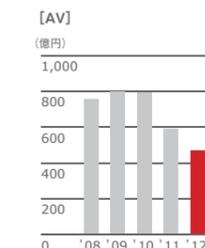
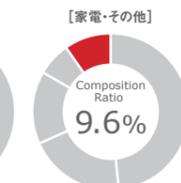
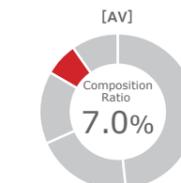
カビやウイルス、空気清浄対策ならびに肌保湿に有効なイオン発生装置。空気をケアする新しいライフスタイルを提案します。

AV/家電機器の中にあるムラタの主要製品

薄型テレビをコアマーケットに。

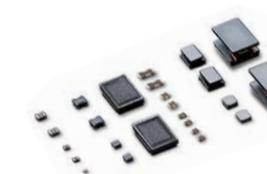
大画面化と高画質に加え、周辺機器とのリンク機能や通信サービスとの融合により、テレビは見て楽しむだけでなく、最も身近な情報端末に変わりつつあります。薄型テレビはコンデンサやインダクタなどのコンポーネント部品の需要を牽引しています。

■ AV/家電・その他の売上構成比と売上高



**電気二重層キャパシタ**

モバイル機器用のバッテリーや、小型電源のピーク負荷軽減が可能。小型・薄型かつ低抵抗を特徴とし、セットの小型化に貢献します。



**チップEMI除去フィルタ(エミフィル®)**

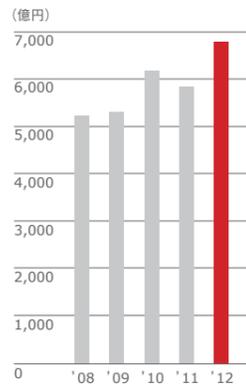
AV機器/家電のデジタル化が進んでおり、機器内部を流れている高速クロック信号が時に電磁ノイズとして機器に悪影響を与えることがあります。EMI除去フィルタはノイズによる誤動作などを防止し、同時にAV機器の高画質・高音質に貢献しています。

# Financial Highlights

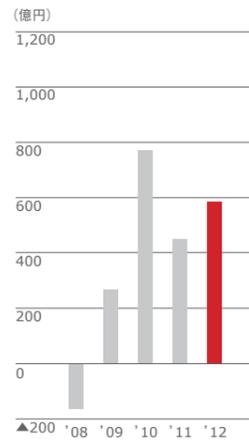
スマートフォン、タブレット、カーエレクトロニクス…。  
ムラタの電子部品は、さらにフィールドを広げています。

スマートフォンは、現在、世界中で使われている携帯電話の半分程度を占めています。  
3年後には、これが70%程度まで伸びると予測されています。  
この市場の広がりのおかげで、創業以来の主力製品である積層セラミックコンデンサに加え、  
通信モジュールや圧電部品が伸びています。  
また、自動車関連では安全性の向上に寄与するセンサに期待が集まっています。

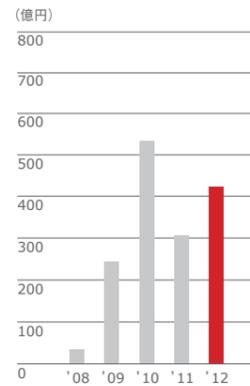
## 売上高



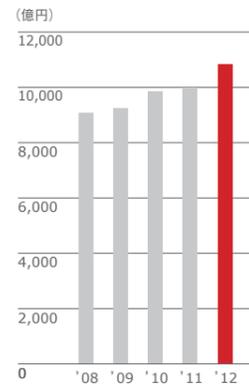
## 営業利益



## 当期純利益



## 総資産

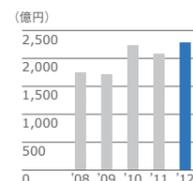
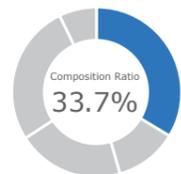


## ■ コンデンサ

圧倒的なアドバンテージを持つ  
小型化・大容量化技術。

小型化・大容量化が求められる積層セラミックコンデンサにおいて、ムラタは世界最小の0.2mm×0.1mmサイズを開発しました。量産されているものでは世界最小の0.4mm×0.2mmサイズは、ハイエンドなポータブルデバイスでの採用が進んでいます。この分野では、圧倒的なアドバンテージを誇っています。

株式会社村田製作所 第2コンデンサ事業部  
阿部 優子

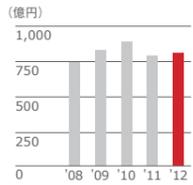
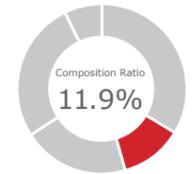


## ■ 圧電製品

マルチバンド、マルチモードで活躍する  
表面波フィルタ。

3GからLTE、4Gへと通信規格が進化するなかで、ポータブルデバイスはマルチバンド化、マルチモード化の流れにあります。表面波フィルタやデュプレクサは、圧電部品のなかでもとりわけ大きな需要の伸びが期待できます。

株式会社村田製作所 SAW商品部  
山崎 直

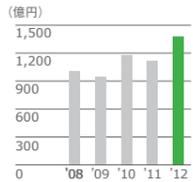
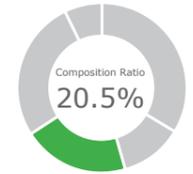


## ■ その他コンポーネント

MEMSを中心に、  
自動車市場で伸びる。

通信分野でEMI除去フィルタやインダクタが伸びているほか、自動車関連では、各国で横滑り防止装置(ESC)などの搭載が義務化されるなか、滑りを検知するMEMSセンサ(加速度センサ)が需要を伸ばしています。

株式会社村田製作所 センサ事業部  
酒井 貴智

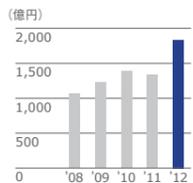


## ■ 通信モジュール

スペースを創り出す、  
部品内蔵技術の将来性。

スマートフォンやタブレットPCの一層の多機能化が進むなかで、通信モジュールの小型化は、ますます強く求められています。多層基板技術、部品内蔵技術がそのソリューション。ムラタの要素技術を集大成して、お客様のニーズに応えます。

株式会社村田製作所 コネクティビティ商品事業部  
川島 啓

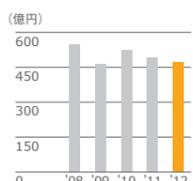
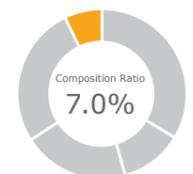


## ■ 電源他モジュール

業界標準へ、  
新たな体制づくりに取り組む。

これまで、ムラタの電源モジュールはサイズや出力などの対応によるカスタム品を得意としてきましたが、これからは業界標準品も強化していきます。この市場は大きく、グローバルに広がっており、ムラタでは新しいマーケットに挑むべく、体制づくりを進めています。

株式会社村田製作所 パワーモジュール商品事業部  
藤田 奈穂子



Global Network



## The Americas



売上高 441億円  
従業員数 650人  
関係会社 14社

Murata Americas  
General Manager  
Connectivity Solutions  
Mehul Udani

*Innovation begins with "I" and  
hence with each one of us!*

ムラタアメリカスでは、新しい市場、新しいアプリケーションにおいて無線モジュールを利用いただく機会の創出に力を入れています。ハードウェア、ソフトウェアへのサポートに留まらず、さまざまな市場のニーズに対応できるソリューション提案により、新たな価値を提供していきます。幅広いムラタ製品を提供していくアンカーとして、無線技術を役立てます。



## Japan



売上高 743億円  
従業員数 22,537人  
関係会社 24社

株式会社村田製作所  
技術・事業開発本部 デバイス開発センター  
デバイス開発部 担当次長  
長谷川 隆

### コア技術の創造

野洲事業所はムラタの研究開発拠点であり、材料、生産技術、商品開発を行っています。これらの開発が有機的に結びつくことで、競争力のある独自製品を創出しています。今後、顧客ニーズが変化し、求められる技術も変化していきますが、他社に勝るコア技術が必要なことは変わりません。我々は変化に対応したコア技術を創出して、そしてそれを可能にする人材を育成します。

# Global Network

さまざまな地域で、76社。  
世界のそれぞれの場所で、ムラタらしく、新しく。

ムラタ製品のおよそ90%は海外で販売されています。

日本、アジア、南北アメリカ、ヨーロッパ。

それぞれの拠点が、同じ方針のもとにお客様志向を貫くだけでなく、それぞれの地域の企業市民として愛され、信頼される存在であるように。

そしてまた、それぞれの拠点が同じムラタの仲間として

ひとつの目的に向かって進んでいけるように。

世界のムラタが、足並みをそろえています。



## Europe



売上高 653億円  
従業員数 1,150人  
関係会社 13社

Murata Europe  
Sales Manager  
Automotive Business Unit  
Daniel Salvans

*LET'S INFLUENCE & BE PART OF CUSTOMER SUCCESS!*

エレクトロニクスはあらゆる領域で発展しており、お客様も多岐にわたります。私たちはグローバルでひとつのチームとなり、お客様のニーズを把握し、お客様の成長に貢献していきます。そして、革新的なアイデアや製品、最高のサービスを提供することで他社との差別化を図ります。ムラタヨーロッパはこれらを実現するために全力を注いでいきます。

## Greater China



売上高 3,714億円  
従業員数 6,868人  
関係会社 16社

村田(中国)投資有限公司  
ビジネスエンジニアリング部  
シニアマネージャー  
翁 瑾 (Weng Jin)

*空をに届けることを思う*

中華圏は世界で最も活気のある地域といわれ、売上げはムラタグループの半分以上を占めています。環境がめまぐるしく変化している現在、さまざまな状況に柔軟に対応し、お客様に“最高の製品”を提供し続けることが求められています。私たちはこれを実現するため、チャレンジ精神を発揮し、新しい価値を創造して“世界のムラタ”づくりに貢献します。

## Asia and Others



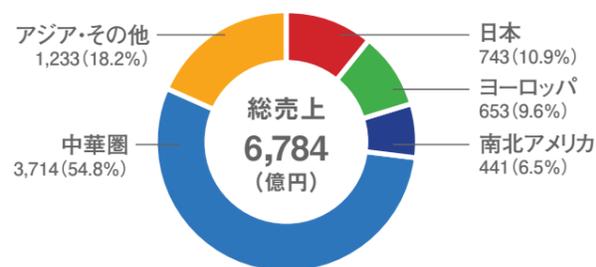
売上高 1,233億円  
従業員数 5,856人  
関係会社 9社

Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.  
Assistant General Manager  
Sales Department  
Peter TAY Wee Peng

*Build global team synergy = High CS  
= Sustainable sales growth*

グローバルアカウントマネージャーとして、電子部品トップサプライヤーの評価を得られたことは大きな喜びです。いろいろな課題に対応する緊密なグローバルチームがお客様の満足度を高めています。「Innovator in Electronics®」としてやるべきことはまだまだあります。

### ■ 地域別売上高



※地域別売上高、従業員数、関係会社数は2013年3月31日のものです。  
※地域別売上高は、電子部品およびその関連製品の売上高です。

# CSR Report 2013

## 地球とともに、社会とともに、人とともに Innovator in Electronics®

ムラタが創業以来、活動の礎としてきた社是には「文化の発展に貢献し」「会社の発展と協力者の共栄をはかり」「感謝する人びととともに運営する」という文言があります。これこそが、今日のCSRに通じる精神です。この社是を中心にすえて、ムラタグループの役員および従業員が、良き企業人として社会への責任を果たし、ムラタの経営理念のもとに誠実かつ公正に行動していくことを宣言した「CSR憲章」を定めています。また、CS(価値の創造と提供)とES(やりがいと成長)を大事な価値観と定め、新たに策定したコーポレートブランドデザインの実現に向けて取り組みを始めていますが、今年はいよいよ報告が出来ます。それはムラタの超小型積層セラミックコンデンサ「0402サイズ」および「0201サイズ」が日本経済新聞社の「2012年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞」をいただいたことです。これはまさに、スマートフォンやタブレット端末に不可欠な超小型(0402サイズ)の積層セラミックコンデンサを、先端技術を駆使して大量に生産・供給していることが評価いただけたものです。これは、まさに当社が文化の発展に貢献していることを評価いただいたものであり、社是の実践を評価していただいたことを誇

りに思います。一方、CO<sub>2</sub>削減や生物多様性への対応といった地球環境保護への取り組みや、紛争地域の鉱物資源問題などの喫緊のグローバルな課題への取り組みも強化し、事業のサプライチェーンを通して、地域・社会の一員としての責任を果たしていきます。また、ムラタは国内外の製造拠点で労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS)の認証を取得してきました。2013年度以降は、このOHSASをツールとして活用し、働くすべての人の安全と健康を経営の最優先課題と位置づけ、安全で快適な職場環境づくりと心身の健康の保持増進に全組織をあげて取り組んでいきます。このように、ムラタはこれからも「地域や社会に開かれた存在であり、信頼し尊敬される企業であり続けること」「お客様にムラタと一緒にビジネスをすることに安心感をもってもらうこと」を目指して、経営理念を基軸とする「CSR憲章」のもと、CSR統括委員会を組織して、さまざまな社会的要請に応えるという形で、整合性の取れた全社的なCSR経営を継続的かつ計画的に推進してまいります。

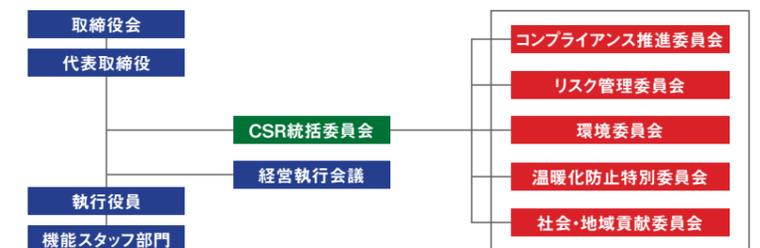
代表取締役社長 CSR統括委員会 委員長 **村田 恒夫**

### CSR憲章(概要)

ムラタでは、ムラタの経営理念をふまえて、法令の遵守はもとより、高い企業倫理観にもとづき、透明性の高いガバナンス、人権尊重、安全衛生、社会貢献、環境保全などに取り組むことにより、社会から信頼される企業であり続けることを目的として、当社に働くすべてのものが遵守すべき規範として「CSR憲章」を定めます。

- **企業統治** 私たちは地域や社会に開かれた存在であり、信頼され尊敬される企業であり続けるために、説明責任を果たし、経営の透明性を高めていきます。
- **人権と労働** 私たちは一人ひとりの人権を尊重し、尊厳をもって対応します。
- **安全衛生** 私たちは安全で快適な職場環境を確保し、従業員の健康管理をおこなうことで、製品・サービスの質と従業員のモラル向上をはかります。
- **環境保全** 私たちは企業活動の過程で生じる社会、環境、天然資源への悪影響を抑え、健康で安心して暮らせる社会の実現をめざします。
- **公正取引・倫理** 私たちは社会的責任を果たし、社会から信頼される存在であるために倫理の最高の水準をめざします。
- **管理の仕組み** 私たちはこのCSR憲章を遵守するための管理の仕組みを構築し、継続的な改善をはかります。

### CSR関連委員会組織図



#### 【CSR憲章と、CSRに関連する方針類】

- CSR憲章 / ■ 企業倫理規範・行動指針 / ■ 人権・労働に関する基本方針 / ■ 労働安全衛生方針 / ■ 環境方針 / ■ 購買方針 / ■ 品質基本方針 / ■ ディスクロージャーポリシー / ■ 社会・地域貢献活動基本方針

#### 【報告対象範囲と情報開示体系】

本レポートでは、ムラタのCSRとその取り組みを把握していただきやすくするため、要点を絞って報告・編集しています。詳細な情報や事例、各事業所別の環境データなどは、株式会社村田製作所のホームページに掲載しています。なお、財務情報についての詳細は「投資家情報」をご覧ください。

#### 【報告対象期間】

2012年4月1日～2013年3月31日

※一部、2012年3月以前、2013年4月以降の取り組みについても報告しています。

#### 【報告対象組織】

村田製作所グループ(株式会社村田製作所および国内外の関係会社76社)

 このマークで示す項目はホームページでさらに詳しい情報を公開しています。



特集：事業とCSR [積層セラミックコンデンサ]

より小さく、より高機能に  
積層セラミックコンデンサが電子機器の進化に貢献。

携帯電話やスマートフォンの進化に向け、  
新たな価値を創造する。

世の中に初めて登場した頃の携帯電話は、カバンのように肩から提げて持ち運んでいました。今は手のひらの大きさで手帳よりも薄く姿を変えました。通話やメールのみならず、定期や財布、地図、カメラなど、ポケットに入れていたものが、すべてスマートフォンに収まっています。いろいろな機能を盛り込むために、狭いスペースに多くの電子回路を構築する必要があります。そして搭載される電子部品は常に、より一層の小型化・薄型化が求められてきました。たとえば、最新のスマートフォンには小さな積層セラミックコンデンサが500~700個も搭載されています。今、携帯電話やスマートフォンに代表される通信ネットワークは、電気、ガス、水道のように、私たちの生活に安全、安心、豊かさをもたらす社会インフラとなりました。普段のコミュニケーションはもとより、災害時にも大きな力を発揮します。ムラタは創業以来、材料の開発から製造プロセス、完成品に至るまで一貫して自社で手掛け、積層セラミックコンデンサの小型化・大容量化をリードしてきました。社会インフラとなった携帯電話やスマートフォンの進化に向け、いかに積層セラミックコンデンサの新しい価値を提供できるか、ムラタにはチャレンジし続ける責任があると考えています。これからも「Innovator in Electronics®」として、新しい価値を生み出す部品、サービス、ソリューションの開発にまい進する決意です。

小型化に挑戦し、世界最小で  
常に業界をリードするムラタ

今年1月、ムラタの超小型積層セラミックコンデンサが日本経済新聞社の「2012年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞」を受賞しました。これは優れた製品やサービスに与えられるもので、実用化されている最小の0.4mm×0.2mm (0402サイズ)、それよりさらに小さい0.25mm×0.125mm (0201サイズ)の開発品が、「トップベンダーとして常に業界をリードし、現在市場で急速に普及するスマートフォンの中で欠かせない電子部品となっている」と評価されました。積層セラミックコンデンサの小型化・大容量化の変遷は、ムラタの歴史そのものといえます。0201サイズの開発が新たなページを開きます。



特集：事業とCSR [MEMSセンサ]

急な路面の変化にもバランスが崩れない、  
アクティブセーフティで車社会の安全に貢献する。

ムラタグループに加わった新しい仲間、  
フィンランド発のMEMSセンサ技術。

MEMSとは、Micro Electro Mechanical Systemsの略で、メモリやマイコンのような半導体製品と同様にシリコンウエハを微細加工するものです。MEMSの場合はシリコン基板上に回路ではなく機械的に動く可動構造体を3次元的に構成します。この構造を利用して圧力、温度、加速度といった物理量を電気信号に変換するセンサや、逆に電気信号を与えて可動構造体を機械的に動かすアクチュエータとしての機能が実現できます。そして2012年1月、フィンランドのMEMS専門メーカーであったVTI Technologies OyがMurata Electronics Oyとしてムラタグループに加わったことによって、3次元MEMS技術によるロバスト性を持った加速度センサ、ジャイロセンサ、傾斜センサを提供することが可能になりました。この新しい技術のメインの市場は自動車、とりわけ自動



MEMS技術によるセンサで、  
自動車に安全を提供する。

写真前列左より  
株式会社村田製作所  
センサ事業部

日吉 克彦  
小見門 良恵  
石黒 裕康  
高木 信弘  
北川 利章  
内藤 勇雄  
後列左より  
木村 正幸  
篠岡 圭一

Murata Electronics Oy  
Executive Vice President  
Automotive  
Hannu Laatikainen

環境特集 [地球温暖化防止]

絞り出すような省エネ努力に加えて、  
工法の根底的な見直しで、劇的なCO<sub>2</sub>削減に挑む。

マザーファクトリーとして、グループ全体への、  
そして社会への責任を果たす。

福井村田製作所は、ムラタグループ最大の生産拠点であると同時に、現場に最も近い開発拠点でもあります。新商品の開発に取り組み、量産化に必要な工法や製造技術、生産技術を開発し、量産化の道筋を整えたうえで、そのノウハウをグループの他の事業所に移管する「マザーファクトリー」としての役割を担っています。省エネ、CO<sub>2</sub>削減の問題でも、福井村田製作所は率先してソリューションを提供する立場にあると認識しています。ここでは、量産ラインと同じところに開発部隊があり、相互の連携と交流のなかで、環境を意識した商品設計、工法開発、設備開発が可能です。主力商品の積層セラミックコンデンサでは、現在、生産数量原単位で計算すると、2007年比で約45%のCO<sub>2</sub>排出量削減を達成しています。ただし、生産数量は2倍に増え、CO<sub>2</sub>排出量では、10%の増加という結果になっています。川上から川下まで、それぞれの部門でわずかずつでも省エネの努力を積み重ねていくことはもちろんですが、これから小型大容量の積層セラミックコンデンサの需要がさらに伸びるとみており、根本的な省エネ政策の必要性を感じています。たとえば、工程のなかで最もエネルギーを使う「焼成」では、温度分布の問題から、現状では炉の中心部しか使えません。また、「加工」のプロセスでは、究極の小型化にむけ、寸法精度を出すためにセラミック基板のすべてを良品として使えず、残りは廃棄せざるをえません。これらの問題にメスを入れていけば、計算上では1個あたりのエネルギーコストを10分の1にすることも可能です。小型大容量の積層セラミックコンデンサの普及自体が、電子機器の省エネ化に貢献するものですが、その製造過程でさらに省エネを達成すること。それこそが福井村田製作所のミッションだと思っています。

株式会社福井村田製作所  
事業所長  
北畑 孝一

環境特集 [メガソーラー]

再生可能エネルギーによる社会貢献を目指して  
大規模ソーラー発電システムを稼働。

[深圳村田科技有限公司]  
経済成長著しい中国で10%相当の電力消費量削減を達成。

昨今、中国では急激な経済成長による慢性的な電力不足が生じており、とくに夏場における電力不足は深刻な状況です。また、CO<sub>2</sub>排出規制をはじめとする環境対策により、企業に対する省エネルギー、環境負荷低減へのニーズはますます高まっています。深圳村田科技有限公司においても、年間の電力消費量が1千万キロワット時を超えるなど、地域に占める割合も大きく、早急に改善すべき重要課題のひとつでした。そこで、再生可能エネルギーの普及と地域の電力不足解消に貢献するため、太陽光発電システムを設置しました。本システムにより、年間約110万キロワット時の電力を抑制することができ、812トンのCO<sub>2</sub>排出量削減となります。これは、当社における年間電力消費量の約10%に相当します。今後も中国で事業を行う企業として、社会的責任を積極的に果たすとともに、ムラタグループ全体へ良い刺激を与えるよう継続して努力します。

深圳村田科技有限公司 管理部  
温 芳京 (Wen Fang Jing)

[野洲事業所]  
震災後のエネルギー供給体制への提案、  
一般家庭200世帯分のメガソーラーシステム。

中国の深圳村田科技有限公司に続き、野洲事業所のメガソーラー発電所「メガソーラー野洲」が竣工し、発電を開始しました。震災後の国内エネルギー供給体制の見直しで、再生可能エネルギーの規制緩和や普及促進策が整備されたこととともない、太陽光発電システムを導入しました。本システムでは、一般家庭の200世帯分に相当する年間約91万キロワット時の電力を発電することができ、全量を電力会社に売電します。システムの施工中、地盤の問題、資材の問題、機器の問題など、数々の難題や苦労がありましたが、無事に竣工、発電開始に至りました。今後とも継続して再生可能エネルギーの普及促進や地域の電力不足解消の一助とするとともに、地元自治体と協力して地域への環境学習等に役立てていきます。

写真左より  
株式会社村田製作所  
EMI事業部  
今川 克也  
株式会社村田製作所  
環境部  
坂田 佳昭  
大塚 浩亮  
株式会社村田製作所  
野洲事業所 管理部  
堤 浩之  
岸村 佳昭  
小嶋 文隆

## [環境保全推進]

各社で環境に対する心のベクトルをそろえ、具体的な情報と活動内容を共有しています。

富山村田製作所、ハクイ村田製作所、氷見村田製作所の3社は、地理的に近いこと、同じ圧電商品を製造していることから、2012年度よりISO14001の仕組み(EMS)を完全統合して活動しています。統合により、EMSの効率化・負荷軽減・コスト削減が進められたということはもちろんですが、省エネ、廃棄物削減、社会貢献活動、緑化活動などの具体的内容が3社間で共有され、他事業所での活動がヒントとなり、自事業所に展開していくといった効果も出てきました。今後も、3社間で効率的かつ実効性の高い環境活動に努めていきたいと思います。

### 環境マネジメント

ムラタは、2009年度に国内全事業所および海外全生産拠点で、環境マネジメントシステムに基づく環境経営の枠組み統合を完了。環境経営にかかわる情報を共有し、効率的で実効性の高い環境活動の推進とガバナンスの強化を目指します。

写真左より  
株式会社富山村田製作所 管理部  
水野 剛  
株式会社氷見村田製作所 事務課  
山下 義明  
株式会社ハクイ村田製作所 事務課  
石丸 能之



残った樹脂を再生ブロックへ。  
構内の歩道や地域の美化に役立っています。

Murata Electronics (Thailand), Ltd.では、3R (Reduce, Reuse, Recycle) のコンセプトに基づいて廃棄物の削減に取り組んでいます。たとえば、生産活動で残った樹脂やプラスチックを歩道用ブロックに再成型し、構内で使用しております。また、この再生樹脂ブロックは構内のみでなく、地元地域の方々に役立てていただくなど、地域社会貢献としての役割も担っています。

### 廃棄物の削減

ムラタでは、2003年度にゼロエミッションを国内グループで達成しました。現在は、海外でのゼロエミッションと、廃棄物発生量そのものの削減に取り組んでいます。

写真左より  
Murata Electronics (Thailand), Ltd.  
Environmental Control Section  
Kiathipong Somdet  
Patcharin Kaiyasit  
Mirth Srihongskuk



つくるときも、お使いいただくときも、  
そして廃棄するときも、環境にやさしい製品を。

私たちの商品部では、デジカメ市場において成長著しいミラーレスカメラ向けのマイクロDCDCコンバータモジュール(以下、マイクロDDコン)開発を担当しています。環境配慮型製品が求められている昨今、マイクロDDコンにおいても小型・軽量化、高効率化が求められています。今回開発した製品は、関連部門との協働により、従来品と比べ製品サイズを25%削減、製品重量を22%軽量化することができました。さらに、小型化した上に高効率化も実現しております。今後もさらなる小型化、高効率化を目指し、環境に配慮した製品の開発を行っていききたいと思います。

### 環境配慮設計

ムラタでは、部資材購入、設計・開発、生産、使用、リサイクル・廃棄の製品の全ライフサイクルにわたる環境負荷に配慮した製品づくりを行っています。

株式会社村田製作所  
応用技術商品部  
(現 株式会社岡山村田製作所)  
樋江井 智慶



環境保全の取り組みを紹介する活動に  
ムラタセイサク君<sup>®</sup>、ムラタセイコちゃん<sup>®</sup>も活躍しています。

福井村田製作所では、当社が「身近にある安全で安心できる会社」であることを地域の方々にご理解いただくために、会社見学会を行い、環境保全に関する取り組みをご紹介します。また、子どもたちの「理科離れ」が問題視されている中、「ものづくり」を行う企業として、未来を担う子どもたちに理科の面白さを伝えるために、小学校での環境・理科学習、電子工作教室を行っています。これらの活動を通じて、地域の方々当社のことをもって知っていただき、さらには当社のファンになっていただければと願っています。

### 環境リスクコミュニケーション

ムラタでは、事業活動が地域社会に及ぼすリスクの最小化と問題発生時の迅速な対応に努めるとともに、ムラタの環境保全活動について地域の方々にご理解いただくため、会社見学会を開催するなどの情報公開にも努めています。

写真左より  
株式会社福井村田製作所  
管理部総務課  
谷川 千尋  
松田 伸明  
管理部環境課  
増永 輝紀



里山の復活やビオトープづくりを通して  
工場とその周辺を自然とふれあう空間に。

アズミ村田製作所では、事業活動にともなう生態系への影響を考慮し、事業所と隣接した雑木林を「里山」の自然環境に戻す活動に取り組んでいます。また、林の中を流れる水路を利用して、多様な生きものが生息できる空間「ビオトープ」をつくることも計画しており、将来、近隣の小中学生向けの自然観察用教材として、また近隣住民の方々および従業員の憩いの場として活用されることを目指しています。今後も、生物多様性に富む社会づくりに向け、環境保全につながる多彩な活動を未来に向かって展開していきます。

### 生物多様性の保全

ムラタでは、事業活動と生物多様性の関わりを考え、以前より生態系の保全や再生活動に力を入れてきました。2011年1月には環境方針の中に生物多様性の保全に関する行動指針を追記し、これらの活動をさらに加速するとともに、従業員の生物多様性保全の重要性に関する意識向上にも努めています。

写真左より  
株式会社アズミ村田製作所  
事務課  
小林 弘  
矢花 美香  
降幡 清治



航空輸送からフェリー輸送へ、  
物流でのCO<sub>2</sub>削減1,170tを達成しました。

無錫村田电子有限公司では、環境負荷軽減のため物流CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。日本からの海外拠点向け貨物の多くはエアで出荷されており、当社向けの貨物もボートで出荷されるのは一部のみでした。そこで私たちは、本社物流部門のサポートを得て出荷部門と協力し、2012年3月より日本からの出荷に海上フェリーを導入しました。さらに、この対象貨物を順次拡大したことにより、エアで出荷した場合に比べて、2,926tから1,756tと2012年度トータルで1,170tのCO<sub>2</sub>排出量を削減することができました。今後も、物流CO<sub>2</sub>削減に向けて積極的に取り組んでいきたいと思います。

### 環境配慮型物流・包装の推進

製造段階だけでなく、製品を輸送する物流段階においても環境負荷削減に取り組んでいます。輸送の効率化でCO<sub>2</sub>を削減するとともに、包装材を削減して廃棄物を減らしています。

写真左より  
無錫村田电子有限公司  
管理統括部  
鍾 偉躍 (Zhong Weiyue)  
無錫村田电子有限公司  
管理部  
楊 愛華 (Yang Aihua)  
沈 她 (Shen Ta)





[従業員への責任と行動]

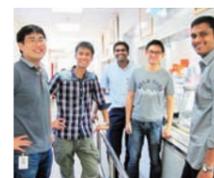
ムラタで働くことは、世界で働くこと。若手が実感する、多様性のなかのムラタ、ムラタのなかの多様性。

お互いの文化的背景を尊重しながら、「技術」という共通言語でコミュニケーション。

村田製作所には、将来のグローバル人材の育成のため、若いうちに海外事業所で実務を通して学ぶプログラムがあります。私たちはこのプログラムに応募して、現在、シンガポールで研修中です。ムラタでは海外生産比率が高まっており、生産設備の海外への供給や現地調達などの仕事が増えています。設備の立ち上げ、保全、改善など、現地のスタッフとの協業は不可欠であり、この分野に自分たちの仕事のステージを広げていきたいと思ったのです。畑は、設備の保全・改善を学んでいます。現地スタッフと一っしょに、設備の一部のブロックを切り取った「モノづくり道場用トレーニングキット」をつくるなど、従業員の教育推進の手法を研究しています。中川は、設備のグローバル調達を学んでいます。現地スタッフの協力を得ながらシンガポール政府のコネクションも使いつつ、ASEAN地域の優秀でリーズナブルな設

備メーカーとコンタクトを取ろうとしています。どちらも、現地スタッフと円滑にコミュニケーションを取り、ベクトルを合わせて取り組むことが大切です。シンガポールは国際都市であり、経済成長も著しいことから、優秀な人材が多く、刺激を受けることもしばしばです。とりわけビジネス的な視点については、教わることが多いと感じています。技術の世界は万国共通というものの、仕事上のやりとりにはお互いの文化的な背景が微妙に影響します。社内の言語は主に英語ですが、シンガポールの街に一步出れば、そこは中国語の世界。この多様性のなかに身を置くことで、自分自身が外に向かって開かれていくことを実感します。ムラタで働くことは、世界で働くこと。あらためてそういう認識を深めました。シンガポールでつながりを持ったスタッフとは、研修が終わったあととも一っしょに仕事をする機会を持ちたいと思います。

写真左より  
株式会社村田製作所  
生産本部  
モノづくり技術統括部  
畑 昭範  
株式会社村田製作所  
技術・事業開発本部  
新規プロセス開発センター  
中川 雄介



Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.の現地スタッフたち

[従業員への責任と行動]

安全で快適な職場づくりを目指して安全衛生活動に取り組んでいます。

自分たちが動けば、現場は変わっていく。安全は、コミュニケーションと工夫から生まれます。

OHSAS(Occupational Health and Safety Assessment Series)は、国際コンソーシアムによって策定された労働安全衛生に関する国際規格です。この認証を得ていることを取引条件とするメーカーもあるほどで、信用の証しでもあります。もちろん、いちばん大事なのは働く人たちに安全な環境を提供することで、目指すは労災ゼロ。「監督者が意識を高めることで、作業者の意識も変わる」との工場長の熱い思いを受けて、外部認証の1年半ほど前から事務局が準備を進めてきました。安全衛生の取り組みは、細かいことの積み重ねです。合い言葉は「現場・現物・現象」。事業所のなかのどこにリスクが潜んでいるのか、現場を回り、作業者の声をまとめて、リスクアセスメント表をつくります。2011年にアセスメントを始めましたが、1年後には、普段は見えていなかった潜在的なリスクが表にどんどん出てくるようになりました。実は金津村田製作所で

は、2000年から全従業員が危険を感じたり発見した場合に、カードにその内容を記載し、改善していくKYA(危険を予知し、アクションを取る)活動を進めてきました。この蓄積が、リスクアセスメントに取り入れられているのです。リスクアセスメント表は作業場のみんなが見えるところに掲示されていて、改善がなされるたびに更新されていきます。安全衛生委員会の集まりでも、積極的な発言が見られるようになってきました。もともとムラタはモノづくりが大好きな人の集まり。事業所の各フロアに「創作の森」と名付けられた場があって、リスクを低減したり、ムリ・ムダ・ムラをなくするための仕掛けや道具を自分たちで工夫してつくる活動も展開しています。私たち事務局も、現場の声を聴いたらすぐに動くことを心がけてきました。自分たちが動けば、職場が変わっていく。そんな意識が、従業員の間で共有されてきていることが実感できます。

写真左より  
株式会社金津村田製作所  
事務局  
北野 好美  
丸子 晋一



[仕入先様への責任と行動]

サプライチェーンを通して、CSRを浸透させています。

CSRの活動を通してムラタと仕入先様がWin-Winの関係になることを目指します。

企業は利益追求だけではなく社会的責任を負っており、購買活動においてバイヤーは、仕入先様から目的物を調達するだけでなく、取引を通して仕入先様にもCSRを意識していただくことが大切だと考えています。啓蒙や定期監査などの管理面だけでなく、Reduce、Reuse、Recycleを仕入先様と一しょに進めることで、適性品質、環境にやさしい生産活動を目指しています。たとえば、梱包材料の再利用や通函の導入は、仕入先様にとっても手間とコストを削減する効果があります。労働条件や安全衛生の向上なども、サプライチェーンを通して浸透させていくことに取り組んでいます。CSRにおいては、ムラタと仕入先様が、ともに持続的な改善を行っていくことが大事です。そのことを、仕入先様の現場を訪問し、改善提案をするなかで伝えてきました。この考え方を経営のなかにすすめることによって、ムラタと仕入先様がWin-Winの関係になる。それが、私たちの目指すところです。

写真右より  
無錫村田電子有限公司  
業務部 資材管理科

- 山口 智之
- 周 筱秋 (Zhou Xiaoci)
- 陈 素芳 (Chen Sufang)
- 宣 勇 (Xuan Yong)
- 王 敏亚 (Wang Minya)
- 凌 晓波 (Ling Xiaobo)
- 严 艳 (Yan Yan)
- 周 梅红 (Zhou Meihong)
- 丁 海燕 (Ding Haiyan)
- 周 红 (Zhou Hong)

[紛争鉱物問題への対応について]

2010年7月の米国でのDodd-Frank法の成立をきっかけに、世の中で「紛争鉱物問題」が大きくクローズアップされるようになりました。また2012年8月にSEC(米国証券取引委員会)が同法の最終規則を採択して以来、多くの得意先様から「弊社製品における紛争鉱物に関する情報提供」を求められています。弊社におきましては、企業の社会的責任(CSR)の一環としてこの「紛争鉱物問題」を捉え、次のような方針でこの問題に取り組んでおります。

- ①紛争鉱物を管理する仕組みを構築し、弊社製品の紛争鉱物フリーに向けた活動を継続的に推進する
- ②「EICC/GeSIプログラム」に基づき、使用する部資材の精錬業者を調査する
- ③精錬業者情報ははじめとした紛争鉱物に関する情報を得意先様に対してタイムリーに発信、共有化する  
今後も仕入先様および得意先様と密接な連携を取りながら、弊社として企業の社会的責任を全うすべく、この問題に対して真摯にそして確実に取り組んでいきます。

[社会・地域への責任と行動]

世界規模で考えながら、それぞれの地域への関わりを深める。

広場一面を深紅に染めるきりしまつつじを育成。

穴水村田製作所では緑化活動の一環として2009年より国定公園の一角を借りて、穴水町特産の「能登峨山きりしま」の育成を始めました。総数約400本を従業員とその家族とともに育てています。景石の設置やきりしまの増植、移植、草刈りで景観を整え、2012年から能登一円の愛好家らが自慢のきりしまを公開する「能登キリシマオープンガーデン」に参加しています。5月の満開時期になると、きりしま広場一面が見事な深紅に染まります。今では、地域の方々の注目と期待を集めるまでになり、それが私たちの活動の活力につながっています。

1 深紅に染まる「能登キリシマオープンガーデン」



エコキャップ運動、3年半で約30人の子どもたちにワクチンを。

アスワ村田製作所では、2009年7月から全員参加型活動「エコキャップ運動」をスタートしました。福井テレビの「世界のこどもにワクチンを 日本委員会」の活動に参加し、社内で集めたペットボトルのキャップを提供しています。2013年2月現在、約24,300個のキャップが集まっており、このキャップで約30人分のポリオワクチンが購入でき、さらにCO<sub>2</sub>の削減にも寄与しています。これからも、身近で簡単にできる「エコキャップ運動」を従業員一同協力して継続してまいります。

2 回収したペットボトルのキャップ



アメリカ進出50年。さらに地域の雇用創出と文化交流を。

ムラタは、1963年にアメリカ ニューヨークに事務所を設立して以来、今年でアメリカに進出して50周年を迎えます。1973年には当時のBuy-American政策やおお客様のご要望にこたえるため、ジョージア州に工場を設立し、販売機能も持つアメリカ本社として位置づけました。現地における日本人の生活や子女教育の支援のためのジョージア日本人商工会・ジョージア日本語学校の設立においては当初から積極的に支援し、現在もその活動を続けています。また、地域社会に雇用の機会を提供するだけでなく、日米間の文化交流も促進するため、初代ムラタアメリカの社長・茶之木はジョージア日米協会設立にも深くかかわりました。この組織はジョージア州と日本との架け橋となっています。今後もこれまで培った地域社会との関わりを財産として、次の50年に向けて運営してまいります。

3 50周年セレモニーの様子

フィンランドの子どもたちに理科や科学の魅力を伝えるためムラタセイサク君®の出前授業を実施。

Murata Electronics Oyでは、2012年5月に理科や科学をより身近に感じてもらうためにフィンランドの小学校でセイサク君の出前授業を実施しました。授業には、好奇心旺盛な7歳から12歳の150人ほどの子どもたちが参加し、「なぜセイサク君は自転車に乗ったまま倒れないの?」といった質問や、「幅2センチの平均台を渡るなんてすごい!」などさまざまな質問や感想が飛び交い授業はとても盛り上がりしました。他にヘルシンキにある日本人学校も訪問し、セイサク君の初のフィンランドでの出前授業は大盛況で締めくくられました。

4 大勢の子どもたちに見守られながら走るセイサク君



# [CSR活動における目標と実績]

ムラタでは、重点取り組みテーマを設定し、各種施策を推進して継続的な改善に取り組んでいます。

■ 第5次環境行動計画(2011年度～2015年度)に対する2012年度の実績

項目	対象	2012年度目標	2012年度実績	評価	
[1]製品の環境配慮	グローバル	環境配慮製品(商品、材料、プロセス)の拡充	環境に配慮した設計・開発を目標とし、製品の小型化、省エネを推進した。	○	
	グローバル	製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替の遂行継続	環境負荷化学物質の削減・代替を計画通り進めた。	○	
	グローバル	環境配慮製品の拡充による低環境負荷社会への貢献	環境配慮製品の提案・認定取得・拡充の活動を展開し、多くのユーザーから認定が得られ、既存品からの置き換えに移行中である。	○	
[2]温暖化対策	グローバル	(1)生産拠点における取り組み	国内生産拠点における品種別CO2排出量と数量原単位を把握する仕組みを継続して運用した。すべての海外生産拠点において、品種別CO2排出量と数量原単位を把握する仕組みの運用を開始した。	○	
		グローバル	製造時におけるCO2排出量の削減施策の実施およびモニタリングの継続	製造時におけるCO2排出量削減施策の実施計画を立案し、計画に基づいて削減施策の実施に取り組んだ。	○
	国内工場	物流におけるCO2排出量の実質生産高原単位削減率の2011年度実績値維持	物流におけるCO2排出量の実質生産高原単位削減率の2011年度実績値を維持した。	○	
(2)物流における取り組み	海外工場	物流におけるCO2排出量の把握	海外工場での物流CO2排出実績の把握を進め、海外物流におけるCO2排出量を集計した。(一部推定値を含んでおり、引き続き実績把握の精度向上に取り組む)	△	
	国内工場	グリーン購入率90%達成	実績は87.7%となり、目標未達。次年度も継続して事務用品のグリーン購入率向上に取り組む。	△	
[3]化学物質	国内工場	環境負荷化学物質使用量原単位前年度比13%削減	環境負荷化学物質使用量原単位前年度比13%削減	○	
	海外工場	環境負荷化学物質使用量把握と使用量削減の推進	海外工場で使用量を把握した。無錫、深圳、マレーシア、タイで使用量削減に向けた取り組みを実施した。	○	
[4]省資源・資源循環	グローバル	(1)廃棄物に関する取り組み	廃棄物排出量原単位2007年度比4%削減	2007年度比33%削減。	○
		海外工場	ゼロエミッション達成に向けた取り組み継続	無錫、深圳、台湾、タイの4拠点において、ゼロエミッションを維持した。	○
	グローバル	(2)容器包装における取り組み	内作原料のエコ容器への切替え率20%以上達成	切替え率20%以上達成。総流通容器数量約200K本に対して、約169K本新規投入。	○
グローバル	(3)生産工程における取り組み	原材料ロス率の低減	各工程ごとに収率UPなどの改善策に取り組んだ。	○	
[5]生物多様性	グローバル	生物多様性に関する従業員教育の継続実施	昨年度より継続して生物多様性に関する従業員教育を実施した。	○	
	グローバル	生物多様性をテーマとした小中学生向け環境学習の実施	環境学習教材の中に生物多様性の内容を盛り込み、実施した。	○	
[6]環境社会貢献活動	グローバル	環境社会貢献活動の継続実施	地域、社会に密着した事業経営を実現するため、小中学生向け環境学習の実施やムラタの森と題した里山保全活動、事業所緑化活動などを継続的に実施した。	○	

○: 達成  
△: ほぼ達成  
×: 未達成

■ 2012年度の社会性目標に対する実績と2013年度の目標

項目	2012年度目標	2012年度実績	評価	2013年度目標
内部統制システムの整備推進	業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、継続的に業務の標準化・見える化や業務改善・改革を推進する。	・業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、継続的に業務の標準化・見える化や業務改善・改革を推進しており、さらに整備対象の範囲をM&A会社も含め拡大している。また海外生産拡大にともない、リスクに応じた業務手続きの見直しを行った。 ・コンプライアンスや業務の有効性・効率性を目的とした内部統制整備・評価については、連結対象拠点をほぼカバーしている。	○	内部統制整備の対象範囲の拡大を図る(新規・M&A会社)。
	業務の適正性を確保するためのモニタリング機能を充実させ、コーポレート・ガバナンス体制における透明性と実効性を向上させる。	コンプライアンスやリスク管理など内部統制システムに関してリスクアプローチにより重点項目を独立した内部監査部門が評価・モニタリングすることで、透明性と実効性を向上させている。	○	データを活用した効率性・網羅的監査を実施する。 業務の有効性・効率性のさらなる向上およびコンサルティング活動を推進する。
コンプライアンスの推進	グループ横断的な視点から再構築・合理化したコンプライアンス体制の充実を図る。 ①コンプライアンスアンケート、行動指針確認テストの継続。 ②コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信。 コンプライアンス知識に関するメールマガジン 12回/年 コンプライアンス推進活動に関するメールマガジン 4回/年 ③コンプライアンス推進強化月間の定着。	①コンプライアンスアンケートおよび、一般的なコンプライアンス知識と企業倫理規範・行動指針の内容に関する確認テストを実施した。 ②コンプライアンス知識に関するメールマガジン 12回/年 コンプライアンス推進活動に関するメールマガジン 4回/年 ③当社および国内関係会社において、10月を強化月間とし、コンプライアンスに関する勉強会等の施策を集中して行った。	○	グループ横断的な視点から再構築・合理化したコンプライアンス体制の充実を図る。 ①コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信。 コンプライアンス知識に関するメールマガジン 12回/年 コンプライアンス推進活動に関するメールマガジン 4回/年 ②コンプライアンス推進強化月間(10月)の定着。 ・グループ討議の実施 ・確認テストの実施 ・啓蒙ポスターの掲示 ・アンケートの実施
リスクマネジメントの強化	全社的な事業リスクのうち重点的に取り組むテーマについて対策を強化するとともに、リスクマネジメント活動を通じて各種リスク対策の継続的な改善を図る。	主要なリスク項目の対策の実施状況を半期ごとに確認し、課題の抽出と今後の計画を明らかにした。	○	当社の事業の継続を阻害する主要なリスクに対し、未然防止策およびリスクが具現化した場合の損失の極小化対策についての全社的な取り組みを強化する。
社会・地域への責任と行動	地域社会に定着し認知される社会・地域貢献活動を継続して行う。	・コンデンサを題材とした実験キットを新たに制作し、地域の小中学校と連携した理科教育・環境教育の内容の充実や機会の拡大。 ・地域イベントへの参加や、地域住民向けの事業所見学会の機会を増加。 ・地域清掃活動、森林保全活動、緑化活動を継続して実施。	○	地域社会に定着し、愛され親しまれる社会・地域貢献活動を継続して行う。
仕入先様への責任と行動	国内外すべての購買担当者に対して、コンプライアンス、CSR調達に関する理解度確認テストを実施。	資材部門内研修会でコンプライアンス、CSR調達講習会を5回開催した。また国内外全担当者に向けて理解度テストを実施した。	○	「紛争鉱物問題」への対応として、仕入先様とともに紛争鉱物情報(精錬業者情報)の調査を行う。あわせて、社内における紛争鉱物管理の仕組みを構築する。
	適法性体制強化のための社内研修会と業務診断を国内外購買拠点に実施。	仕入先様から不正行為の通報があった場合の対応ガイドラインについて、周知徹底のためのセルフアセスメントを国内外の資材拠点で実施した。また国内拠点では一般社員向け下請法講習会を8回開催。資材部門内を対象として異動者向けに下請法教育を随時実施した。	○	主要事業所において下請法講習会を実施し、資材要求部門の社員一人ひとりにおける下請取引の認識を深める。また主要事業所において下請法教育を行うことができる人材を育成する。
従業員への責任と行動	海外全資材拠点にて、仕入先様からのCSR合意書取り寄せの取り組み完了。	海外全資材拠点にて、仕入先様からのCSR合意書取得するよう日常業務に取り込みを行った。	○	仕入先様から通報があった場合の対応ガイドラインを海外拠点で確定し、コンプライアンス体制を海外拠点でも充実、強化させる。
	仕入先様との取引について、当社および国内全関係会社の社員に対しコンプライアンスの周知徹底。	資材部門内研修会でコンプライアンス、CSR調達講習会を5回開催した。また国内外全担当者に向けて理解度テストを実施した。	○	
	・適性に応じたキャリアを選択できる制度を引き続き実行。 若年社員の自己申告制度、キャリア形成プログラムの実施。 ・外国人出向者の受け入れ推進。 2012年度: 30人 ・シニア層の活躍を支援する制度の導入・拡充。 シニアエキスパート制度の実施。 キャリアマネジメント研修会の実施。2012年度: 10回	・入社4年目社員の自己申告を実施し、2008年入社社員のキャリア形成プログラム実施率は42%となった。 ・外国人出向者の推進。 雇用率2.0%以上 ・シニア層の活躍支援。 キャリアマネジメント研修会を管理職対象に5回、一般社員対象に6回、計11回実施した。	○	・適性に応じたキャリアを選択できる制度の実行。 キャリア形成プログラムによる異動の実践。 ・障害者雇用の推進。 雇用率2.0%以上 ・シニア層の活躍支援。 キャリアマネジメント研修会の実施。2013年度: 10回
	ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続。(セクハラ・パワハラ研修未受講従業員全員に対して2012年度5回実施。一般職者向けに2012年度2回実施)	・全事業所で、従業員(未受講者)向けハラスメント研修を16回実施した。 ・人権教育を階層研修として1回実施した。	○	・ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続。 セクハラ・パワハラ研修未受講従業員全員に対して2013年度4回実施。一般職者向けに1回実施。 ・人権教育の継続。 階層教育として年1回実施
・ダイバーシティと自律に対応した福利厚生制度の定着化。 ・仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実・定着化。	・自律支援・健康支援・両立支援の3分野を対象とした選択型福利厚生制度のPRを年4回実施し定着化を図った。また、手続の簡素化やメニューの追加などで利用度の向上を目指した。 ・社員の子女を対象とした仕事体験と会社見学会を開催した。(参加者11人) ・介護のための短時間勤務の期間を1年→5年に拡大した。	○	・仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実・定着化。 従業員子ども参観日の開催 1回	
・経営理念浸透・共有策のさらなる推進。 ・グローバル化教育の実施。(英語力強化研修 上下期各1セット実施) ・次世代リーダー研修の実施。	・コーポレートの理念浸透スキームを作成し、役員ワークショップ、役員主催研修を実施した。(国内外 合計40回) ・国内英語力強化研修を実施した。 (トータル受講人数 701人) ・次世代リーダーの育成のため、経営塾(受講者 5人)、ビジネスリーダー研修を実施した。(受講者 18人)	○	・経営理念の浸透・共有策の推進。 役員主催研修の実施 30回 理念共有対話会の実施 4回 ・外国人出向者受け入れ推進。 2013年度: 30人 ・外国人採用の強化。 海外大学卒業 新卒入社者: 2名 ・グローバル化教育の実施(英語力強化)。 英語力強化研修 上下期各1セット実施	
国内12事業所を対象に労働安全衛生マネジメントシステムの外部認証取得を進める。	国内12事業所が、労働安全衛生マネジメントシステムの外部認証を取得した。	○	安全体感教育を安全衛生教育のひとつの柱と位置づけ、本格的な導入・展開を図る。	

○: 達成  
△: ほぼ達成  
×: 未達成

第三者からのご意見

# ムラタのCSRに寄せて

今年度のムラタのCSR Reportでは、「事業とCSR」について踏み込んだ記述をされたことと、環境保全活動やCSR活動の担い手である従業員の顔が分かる報告書という2つの点が特徴的です。

「事業とCSR」では、主力製品である積層セラミックコンデンサが社会的インフラのひとつであることを強調され、その技術力および生産力をCSRの視点から説明されています。事業を通じた社会貢献は、企業の最も重要な社会的使命ですので、社会的インフラに貢献する企業として自社を位置づけられたことはCSRとして大きな意味を持ちます。次の段階として、このような考え方を具体的な活動に結び付けていくことが大切です。たとえば、品質保証や事業の継続性の確保は重要な社会的責任事項になりますので、そのための目標や管理体制をCSRの視点から見直して、必要に応じて情報開示していくことが求められるようになると思います。

従業員の顔のわかる報告書という点では、環境保全活動やCSR活動に取り組んでいる従業員の生き生きとした姿が紹介されており、会社の活力を感じさせます。また、このような編集によって、従業員の環境やCSR活動への関心を高めることも期待できます。従業員は、最も重要なステークホルダーですので、このような会社の姿勢は高く評価できると思います。今後は座談会や対談のような意見交換の記事もあってもよいかもしれません。

このようにムラタの報告書はユニークな特徴を持つものですが、CSR Reportとして見た場合、定量的な情報も織り込んでいくことが今後は重要になると思います。財務情報については、数値情報が掲載されているので、CSR情報についてもこのような数値情報を、記述情報と一緒に掲載されれば、内容がより一層具体的に理解できるようになるでしょう。もちろん、詳細な情報はすべてwebで開示されていますが、主要な情報だけでも報告書に掲載されれば、CSR Reportとしての価値は一層向上すると考えます。

そのためには環境やCSR活動に関する目標となるパフォーマンス指標が必要になると思います。現在、財務報告書とサステナビリティ報告書を結合した統合報告書を作成する動きが世界的に進んでいます。ムラタの報告書は、財務とCSRをまとめた統合報告書としての特徴を持つのですから、是非統合報告書としても世界的な評価を受けるような報告書のレベルへ発展させてほしいと期待しています。



神戸大学大学院 経営学研究科 教授

國部 克彦氏

Profile

# 国内外拠点一覧

[ 国内拠点一覧 ]

村田製作所 / 本社・支社・事業所・営業所	
本 社	株式会社村田製作所
支 社	東京支社
事 業 所	横浜事業所 / 野洲事業所 / 八日市事業所 / 長岡事業所
営 業 所	仙台 / 水戸 / さいたま / 東京 / 立川 / 浜松 / 名古屋 / 安曇野 / 京都 / 神戸 / 岡山 / 福岡

[ 海外拠点一覧 ]

North & South America 南北アメリカ	
U.S.A.	Murata Electronics North America, Inc. SyChip, L.L.C. Murata Power Solutions, Inc. RF Monolithics, Inc.
Canada	Murata Power Solutions(Toronto) ULC Murata Power Solutions(Canada) ULC
Mexico	Murata Electronics Trading Mexico, S.A. de C.V.
Brazil	Murata World Comercial Ltda. 他

Europe ヨーロッパ	
Netherland	Murata Electronics Europe B.V. Murata Electronics(Netherlands) B.V.
Germany	Murata Elektronik GmbH
U.K.	Murata Electronics(UK) Limited Murata Power Solutions(Milton Keynes) Limited Murata Power Solutions(Celab) Limited Celab Power Management Limited NCL Holdings Limited
France	Murata Electronique SAS
Italy	Murata Elettronica S.p.A.
Finland	Murata Electronics Oy 他

上記の国以外にスペイン、スウェーデン、ハンガリー、スイスにセールスオフィスを設置しています。

国内関係会社	
株式会社福井村田製作所	株式会社小諸村田製作所
株式会社出雲村田製作所	株式会社ワクラ村田製作所
株式会社富山村田製作所	株式会社登米村田製作所
株式会社小松村田製作所	株式会社大垣村田製作所
株式会社金沢村田製作所	株式会社アスワ村田製作所
株式会社岡山村田製作所	株式会社穴水村田製作所
株式会社金津村田製作所	村田土地建物株式会社
株式会社鯖江村田製作所	株式会社ムラタ栄興
株式会社イワミ村田製作所	株式会社ムラタアクティブパートナー
株式会社ハクイ村田製作所	株式会社ムラタエレクトロニクス
株式会社水見村田製作所	ムラタソフトウェア株式会社
株式会社アズミ村田製作所	ムラタ分析パートナー株式会社

Asia アジア	
China	村田(中国)投資有限公司 (Murata(China) Investment Co., Ltd.) 無錫村田電子有限公司 (Wuxi Murata Electronics Co., Ltd.) 深圳村田科技有限公司 (Shenzhen Murata Technology Co., Ltd.) 村田電子貿易(天津)有限公司 (Murata Electronics Trading(Tianjin) Co., Ltd.) 村田電子貿易(上海)有限公司 (Murata Electronics Trading(Shanghai) Co., Ltd.) 村田電子貿易(深圳)有限公司 (Murata Electronics Trading(Shenzhen) Co., Ltd.) 賽芯電子技術(上海)有限公司 (SyChip Electronic Technology(Shanghai) Ltd.) 村田電源技術(上海)有限公司 (Murata Power Solutions(Shanghai) Co., Ltd.) 广州村田電源技術有限公司 (Guangzhou Murata Power Solutions Limited)
Hong Kong	村田有限公司 (Murata Company Limited)
Taiwan	台湾村田股份有限公司 (Taiwan Murata Electronics Co., Ltd.)
Korea	韓国村田電子株式会社 (Korea Murata Electronics Company, Limited)
Singapore	Murata Electronics Singapore(Pte.) Ltd.
Thailand	Murata Electronics(Thailand), Ltd. Thai Murata Electronics Trading, Ltd.
Malaysia	Murata Electronics(Malaysia) Sdn. Bhd.
Philippines	Murata Electronics Philippines Inc. Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.
India	Murata Electronics(India) Private Limited
Vietnam	Murata Electronics(Vietnam) Co., Ltd. 他

**役員一覧** 平成25年7月1日現在

代表取締役 取締役社長 村田 恒夫  
取締役副社長 藤田 能孝

取締役 村田 恒夫  
藤田 能孝  
牧野 孝次  
中島 規巨  
竹村 善人  
棚橋 康郎(社外取締役)  
吉原 寛章(社外取締役)

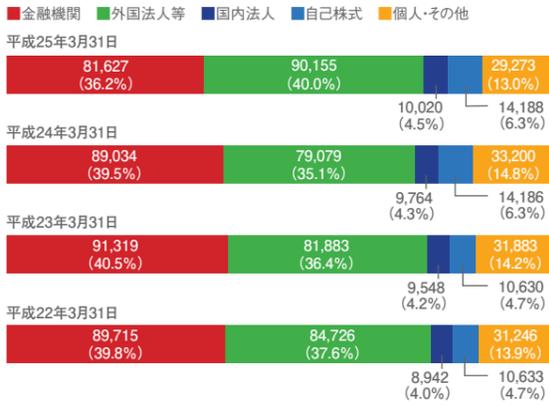
監査役 常勤監査役 吉野 幸夫  
田中 純一  
監査役 豊田 正和(社外監査役)  
中西 倭夫(社外監査役)  
西川 和人(社外監査役)

執行役員 上席常務執行役員 牧野 孝次  
濱地 幸生  
常務執行役員 井上 亨  
中島 規巨  
上席執行役員 小島 祐一  
藺田 聡  
岩坪 浩  
執行役員 岡田 剛和  
前川 利弘  
竹村 善人  
鴻池 健弘  
丸山 英毅  
多田 裕  
石谷 昌弘  
水野 健一  
石野 聡  
フェロー 酒井 範夫  
執行役員 宮本 隆二

**株式の状況** 平成25年3月31日現在

株式事項 当期末発行済株式総数 225,263千株  
当期末株主数 69,870名

**所有者別分布状況(千株)**



株式上場 [国内] 東京証券取引所 市場第一部  
大阪証券取引所 市場第一部  
[海外] シンガポール証券取引所  
市場統合後は、国内は東京証券取引所の上場となります。

**大株主の状況** 平成25年3月31日現在

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ジェービー モルガン チェース バンク 380055	20,210	9.6
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	10,612	5.0
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	10,210	4.8
日本生命保険相互会社	9,201	4.4
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	6,686	3.2
株式会社京都銀行	5,260	2.5
明治安田生命保険相互会社	5,240	2.5
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	4,220	2.0
株式会社滋賀銀行	3,551	1.7
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	3,277	1.6

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(14,188千株)を除いて計算しております。